

## 第 29 回 東京都公金管理アドバイザー会議 議事要旨

日 時	令和 8 年 3 月 23 日 (月) 13:15 ~ 14:02
開催方法	Microsoft Teams を用いたオンライン会議
出席者	委員) 今井委員、内山委員、渥美委員、野崎委員 事務局) 梅村局長、巻嶋管理部長、高橋総務課長、松田公金管理課長、西元資金運用担当課長
欠席者	なし
議 題	1 令和 7 年度公金管理実績 (第 3 四半期) について 2 令和 8 年度公金管理計画について 3 預金先金融機関・購入先債券発行体の評価及び制限額について (1) 新規預金先及び債券発行体の評価について (2) 預金制限額及び債券購入制限額について
要 旨	<p>(1) 会計管理局长挨拶</p> <p>(2) 議題 1 令和 7 年度公金管理実績 (第 3 四半期) について 事務局 令和 7 年度第 3 四半期の公金管理実績について、どのように捉えたか。 委員 計画を着実に進め、債券比率を引き上げたことにより、良好な結果が出たと思う。 委員 平成 14 年度以降、最高の収入額とのことで、皆さんの努力が報われた数字になっていると思う。積極運用といえども、安全性や流動性に留意しており、評価できる。</p> <p>(3) 第 29 回東京都公金管理アドバイザー会議の公開・非公開の取り決め 本会議は、東京都公金管理アドバイザー会議設置要綱第 5 条で原則公開と定めているが、委員の意見を聞いた上で、非公開とすることができると規定している。 議題 2 以降の内容について、委員全員が非公開での実施が適当と表明したことを踏まえ、非公開とすることを決定。</p> <p>(4) 議題 2 令和 8 年度公金管理計画について 事務局 前回は会議までの議論を踏まえ、令和 8 年度の計画案を作成したので、ご意見をいただきたい。 委員 中期債の運用を増やす、というこれまでの議論が合理的に計画に反映されている。所管局と中期的な資金見通しについて継続的にコミュニケーションを取り、その内容を実務に反映できる仕組みを作ると良い。 委員 今後の更なる金利上昇も見込まれる中、3～5 年の中期債を増やしていくことで、金利上昇に対する柔軟性も確保されており評価できる。 委員 流動性リスクをコントロールした上で、金利が高い長めの債券を購入することは、効率性確保の観点からも良い。</p>

委員 基金については、一括運用、複合ラダー型ポートフォリオという新しい試みをしっかりと遂行していくべき。

委員 歳計現金等については、流動性に配慮して当座預金と普通預金を管理しつつ、効率性追求のために引合いを採用するなど、評価できる取組内容となっている。

全委員 本計画案について了承。

事務局 中東情勢の緊迫化などがあるが、今後計画を進めていくに当たり、外部環境を踏まえて気を付けていくべきことはあるか。

委員 適切に情報をキャッチして、タイムリーに対応できる仕組みができていれば良い。

委員 外部環境は不透明だが一喜一憂することなく、計画を着実に進めていくべき。その際、信用リスクや流動性リスクなどを的確に管理することが肝要。

委員 計画に関しては、ある程度の市場変動を踏まえたものとなっているので、特に問題はない。ただ、今後については、リーマンショック以上の金融システム不安が惹起されるようなことがあれば、金融機関の選別も含めて臨機応変に対応することが必要。

#### (5) 議題3 預金先金融機関・購入先債券発行体の経営評価について

事務局 預金先金融機関（邦銀・外銀）及び債券発行体の評価及び制限額について説明。

委員 預金先金融機関（邦銀・外銀）及び債券発行体の評価内容とそれに応じた預金及び債券運用の対応については、適正なものとする。

委員 歳計現金等については、運用先の分散化が進められ、実務的にも機能する保管方法となっており適切である。

以上